

早稲田大学簡帛研究会若手研究者発表会 報告要旨集

早稲田大学簡帛研究会では、以下の日程で若手研究者の発表会を行いました。
各回の報告内容は次のとおりです。

■ 第1回 早稲田大学簡帛研究会 若手研究者発表会

日時：2013年11月14日（木） 16：30～20：00

会場：戸山キャンパス 33号館 8階 第8会議室

報告者：柿沼陽平

題目：「三国時代西南夷の社会と生活」

概要：蜀漢期西南夷の社会と人々の生活について、文字史料を主、考古資料を傍証として検討を加えた。蜀漢側の史料は『三国志』蜀書等に限られ、内容も断片的なので、先行研究の蓄積のある漢代西南夷と晋代西南夷の関連史料に着目し、双方に共通する記載を用いて蜀漢期西南夷社会の状況を推測した。結果、蜀漢期西南夷が本来中原と根本的に異なる社会を構成し、夷独自の社会と生活があったこと、彼らが同質の地理・環境下で単一の集団意識・習俗を共有した存在でなかったことを具体的に論じた。

■ 第2回 早稲田大学簡帛研究会 若手研究者発表会

日時：2013年11月28日（木） 16：30～20：00

会場：戸山キャンパス 39号館 5階 第5会議室

報告者①：岡本正則

題目：「出土資料より見た西周王朝と服属諸氏族の関係—河南・湖北・山西地域の西周墓葬の分析を中心として—」

概要：河南・湖北・山西省で整理された西周墓葬及びそこから出土した青銅器とその関連器の分析を通じて、これら地域にいた服属諸氏族が西周王朝にどのように関係していたかを考察した。そこで注目されたのが、これら諸氏族の称谓に用いられた「公」「侯」「子」、および「伯」「仲」「叔」「季」等の称号で、これらが周王朝との具体的な関係性や氏族内部における関係性を示す語であることを指摘した。

報告者②：川手翔生

題目：「士燮説話の変遷とベトナムへの受容」

概要：ベトナムにおける対士燮イメージの形成過程と受容経緯について、中越双方の漢文史料に見える士燮説話（士燮没後に著された士燮に纏わるエピソード）を検討することでその淵源を見出すとともに、その後、士燮説話がベトナムへ継承されるに至る背景を探った。具体的には、晋・葛洪『神仙伝』や南朝宋・劉敬叔『異苑』、ベトナム陳朝・李濟川『越甸幽霊集』といった志怪・神話小説集に見える士燮説話を検討した。